



第94号 (年4回発行) 編集発行 弘学院大学 前学委員 弘報 印刷所 (有)小野印刷所

二〇二三(令和五)年度

学位記授与式式辞

学長 藁科 勝之

今年の雪は、昨年の大雪から一転して少雪になり、雪解けも早く進むこの季節、弘前学院大学から、新たに若い有為な人材をお送りできることを、嬉しく思います。

皆さん、ご卒業、おめでとうございます。本年度の卒業生、修了生は、以下のとおりであります。学部については、文学部186名(英語英米文学科137名、日本語日本文学科49名、社会福祉学部1社会福祉学科147名、看護学部1看護学科163名)、学部卒業生196名、大学院については、2名(文学

研究科2名

以上、大学院修了生2名。なお、外国人留学生は、2名、学部・大学院、総計、198名の皆さんをお送りすることができました。しかし、新型コロナ禍は、これで丸4年が過ぎ、5年目に入ってしまったております。ただ、最近はやや沈静化している気配が見えます。とはいっても、未だ罹患者が出ている状況から、万が一の用心として、感染を極力排除するために、残念ながら来賓の方々のご参列を見送ることとし、保護者・同僚者の皆様や卒業の皆さんと教職員

しかし、新型コロナ禍は、これで丸4年が過ぎ、5年目に入ってしまったております。ただ、最近はやや沈静化している気配が見えます。とはいっても、未だ罹患者が出ている状況から、万が一の用心として、感染を極力排除するために、残念ながら来賓の方々のご参列を見送ることとし、保護者・同僚者の皆様や卒業の皆さんと教職員

少子化・高齢化が激化して、青森県の減少率の高さは日本2番目だとされます。こうした中で、SDGsとか、DXという社会に向けて、新しい社会を創

員のみの学位記授与式となりました。

さて、このコロナとの戦いの中で、こうして、今日の学位記授与式を迎えたわけですが、この間の、皆さんの努力はこれまでは違っていて、並大抵ではなかったと思われまふ。しかし、それにもかかわらず成果をあげており、その1つは就職状況にも現れております。このコロナ禍で、社会生活上の制限がかけられているという厳しい中でしたが、皆さんは頑張りました。さて、社会は猛烈な勢いで、変化しつつあります。

少子化・高齢化が激化して、青森県の減少率の高さは日本2番目だとされます。こうした中で、SDGsとか、DXという社会に向けて、新しい社会を創

令和五年度国語国文学会冬季大会 開催される

文学部 日本語・日本文学科 教授 鎌田 学

二〇二四年一月一三日(土)一三時から本学一号館大講義室にて、令和五年度国語国文学会冬季大会が開催された。寒空のなか学内外から三七名が参加その方々に改めて感謝申し上げたい。

まず、今年度「文学散歩」の報告を日本語・日本文学科三年の齊藤花蓮と同学科二年の鈴木優羽が行った。二〇二三年は宮沢賢治没後九〇年にあたることから、今回の企画を構想したと説

明。宮沢賢治記念館をはじめ、賢治の故地で学んだことを報告した。次に、大学院文学研究科二年の小野純季が、『御霊信仰』の概念と発生条件―「御霊信仰」は現代に起こり得るか―の題目で研究発表を行った。主に『菅家文草』『菅家後書』に拠りながら、御霊信仰が現代に起こり得るかをユニークに論じた。

最後に、顧問良本学科および大学院文学研究科教授が「少年空想小説『銀河鉄道の夜』―「軽さ」の感覚及び情緒的感性をめぐって―」のタイトルで研究発表。盛岡高等農林学校時代に学んだ宮沢賢治・小菅健吉・保阪嘉内・河本義行―「アザリア」(同人誌の仲間たちの交友関係を踏まえ、自他関係の再構築において、『銀河鉄道の夜』に対する斬新な読みを提起した。この作品は、共生の道筋が切り拓け、新しい世界が見えたと指摘。また『銀河鉄道の夜』初期系の第三次



りあげて行かなければならないのです。

卒業後にも、さらに新しい学びが待っております。大学で学んだ知識・技能を踏まえて、社会人となった後も、新たな知識・技能を手に入れることが必要です。リスキリングの時代です。人生100年時代の生涯学習の時代ですが、その際、必要なのが、日本が世界的に遅れているデジタルに関する知識と技能なので

DX(デジタル・トランスフォーメーション)という言葉があります。実は日本に更に

稿と第四次稿との異同について分析した。新しい世界の構築は、何よりも空間を動態化し、言葉に込めた賢治の批評力によるものであると結論づけた。



足りないのは、X(トランスフォーメーション)だと

このXとはトランスで、「Trans」には「超える・横切る」という意味があり、これが「Cross」と同じになります。この「Cross」には「交差する」という意味がある。クロスなのでXと書く、というわけです。このクロスが大事なのだとされます。つまり物事を追求していく場合に、多種

の分野・領域の知識、観点とクロスさせながら、革新的に課題解決に向かうという進め方です。さらに今では、GXという言葉もあります。GXとは「グリーン・トランスフォーメーション」と言い、カーボンニュートラルいわゆる脱炭素社会のため、様々な多角的な領域と連携しながらの取組です。

社会に出ましたら、自分だけでなく、周囲の人と意見を交わしながら、協働して共創することを心がけてください。積極的な連携です。

DX(デジタル・トランスフォーメーション)という言葉があります。実は日本に更に

終わりに、本学の建学の精神を思い起こしてください。「全ての人を大切にす精神をもって、全ての人と社会に対する責任を積極的に果たす」と謳っています。今ほど切実に感じる時はありません。あのパレスチナ・イスラエル戦争と、今も続くウクライナ侵攻です。あのニュースは他人事ではありません。「畏神愛人」は単なる謳い文句ではありません。いかに大切なものであるかが分かります。ご卒業おめでとうございます。



日本語教育能力検定試験を受けて

文学部 日本語・日本文学科2年 三浦千亜妃

日本語教育能力検定試験は、外国人に日本語を教えるために必要とされる基礎的な知識・能力を測るもので、「日本語教師」の登竜門です。試験の出題範囲は、言語学、音声学、教育法、心理、異文化理解など幅広く、近年の合格率は30%前後です。その試験に合格した文学部の学生に話を伺いました。

日本語教育能力検定試験を受けて私が今回の試験合格で得たものは、単に法務省告示校で働ける日本語教員としての資格だけではなくありません。成功体験の貴重さを再認識する、良い機会となりました。

大学に入学するにあたり、自分の心や考えを、芯を持って相手に伝えられるような人になりたいという理想像を持っていたことから、日本語を言語として多角的に学びたいという強い思いがありました。そこで、日本語教員の資格を得るためのカリキュラムで、念願の言語学や心理学について知識を深めていくことになりました。その中で、2023年5月頃、先生から日本語教員となる方法の一つである日本語教育能力検定試験の受験を勧められ、同年10月の受験に至りました。

今回の試験合格をきっかけに、今後も様々な資格の取得に挑戦していきたいと考えています。残りの大学生活でも引き続き、自己実現に向けて自己投資をしていきたいです。

ツールとして大いに役立ちました。また、言語を勉強することは単なる作業ではなく、人と人をつなぐ大事なコミュニケーションの道具であり、その国や文化を好きになるきっかけをもくれました。私が今回、就職先として盛岡情報ビジネス専門学校で専任講師として働きたいと思った理由は、地元で働けるということと、好きな日本語教育を仕事として働き、微力ながら実践の場で多くの日本語学習者の力になりたいと思ったからです。

専門学校就職への道のり

文学部 英語・英米文学科4年 去石 優菜

日本語教育に興味を持ったきっかけは、高校生の時、自習スペースで友人と勉強していたときのことでした。後ろに座っていた日本語を学習している外国人と日本語を教える日本人の方々の声が聞こえてきました。その時に、私の関心は日本語教育にあることを感じ始めました。自分自身の進路のことも考えなければいけない受験の時期だったので、真っ先に日本語教員の資格を取

得できる大学を絞っていきました。しかし、当時は日本語教育の認知や需要の低さから該当する大学が想像していたよりも少なかったという印象をもっていました。大学入学後は、地元の日本語教育セミナーへの参加、日本語支援サポーター登録、弘前へやってきた様々な国籍の留学生への日本語指導、また大学2年生の頃からアルバイトとしてオンラインで

研究紹介 58

顕彰に欠かせない相互連携

文学部 日本語・日本文学科 講師 井上 裕太



私は主として、音楽・スポーツ等の大衆文化の展示・活用や、そうした文化と地域との関係性について研究している。特に力を入れて研究しているのが、歌手・作曲家・作家から音楽家の顕彰実態の解明である。

音楽家の顕彰とは、博物館・顕彰碑・音楽祭等を通じ、その功績を市井の人々へ広く認知させることである。しかし、その顕彰をめぐるのは、音楽家個人の博物館の休館・閉館、歌碑の移転・撤去、顕彰団体の休会・解散等の事案が近年頻発してい

相互連携

る。これらは、音楽(特にポピュラー音楽)の「時間の経過とともに徐々に忘れられていく宿命にあり、次世代に継承されにくい」という特性が背景にあると考えられる。一九八〇年代以降、様々な顕彰が行われるようになったが、これまでは活動の消滅が問題として意識されることは少なかった。しかし、担い手の高齢化、新規参加者の減少による人材面、財政面の不足等の問題に直面し、顕彰活動の消滅危機にある今だからこそ、この課題に向き合うことが求められる。

その解決の糸口の一つとして考えられるのが、音楽博物館や顕彰団体等の相互連携である。二〇二三年四月施行の改正博物館法では、博物館同士の連携や、

実習の報告

看護学部 看護学科 講師 小野 綾

地域の多様な主体との連携・協力による文化観光その他の活動を図り地域の活力の向上に取り組みることが努力義務となり、博物館は、他機関との連携、地域に根差した取り組みがより一層求められるようになった。これは同法適用外の博物館類似施設においても、持続可能な形で博物館を存続させる上で重要であり、ネットワークを構築することで、各団体の情報共有に留まらず、単独では解決の難しい課題の解決を図ることなどが期待される。実際に、全国科学館連携協議会、全国文学館協議会等、博物館同士のネットワークが構築されている館種では、相互に交流・連携することで、直面する共通課題の共有・解決が図られるなど、その役割が果たされている。

しかし、音楽博物館や顕彰団体等の相互連携は進んでいないのが現状である。音楽博物館には、楽器、音楽家、民族音楽、

キャリアすくなく、疲労、ストレスなどが私たちの抵抗力を低下させるのである。

そこで、風邪予防の抵抗力を上げるにはどうしたらよいか調べてみると、①体温を上げる②バランスの良い食事(ビタミン摂取)③ストレスを溜めないという生活習慣、食習慣に気をつけることが重要であるらしい。

しかし、これまでのこの常識をアップデートする内容のTVが

1月6日「世界一受けたい授業2024(日テレ)」で放送された。その内容は、風邪の予防に効くイメージのあるビタミンCは、効果がほとんどないという研究結果が報告された。ビタミンを摂ることで風邪の期間が短

くなるという報告はあるものの、予防や症状の軽減にはほとんど意味がないという。出演していた医学博士は、風邪の予防として「ガムを噛む(20分以上が効果的)」ことを紹介、ガムを咀嚼することで分泌される唾液に、空气中にまん延するウイルスの侵入を防ぐ殺菌成分があることを明かした。インフルエンザの感染予防も同様という。いろいろ予防方法が紹介されているが、是非ガムを噛んでみてほしい。

7月下旬、看護学部4年生の全体的実習が終了しました。入学した1年生の時から基礎看護学実習I・II、領域別実習(成人看護学、老年看護学、精神看護学、母性看護学、小児看護学、在宅看護学)、公衆衛生看護学実習(保健師過程選択の学生のみ)、看護統合実習という多くの実習がありました。初めての实習は基礎看護学実習レコードをはじめとした音楽を扱うあらゆる博物館が含まれるが、その内容の多様性・複雑性が連携が進まない一因として考えられる。そうした事情を鑑み、現在は、全国の音楽系博物館や音楽家の顕彰事例について、実態調査を行っている。将来的には、音楽博物館同士のネットワークを構築したいと考えており、それに向けた基盤整備を進めていきたい。

博物館実習を終えて

文学部 日本語・日本文学科4年 都谷森 希

10月中旬、私は弘前市立博物館と高岡の森弘前藩歴史館の二館で実習させていただきました。まず、弘前市立博物館では、建物の建築技法や企画展が開催されるまでの流れについて学び、その他には、掛け軸のかけ方やくずし文字の読み取りなどを体験しました。高岡の森弘前藩歴史館では、歴史館が建てられた経緯や隣接する高岡神社の歴史を学び、実務体験として武器の組み立てを行いました。私は今回の実習の中で、「実物資料の管理方法を学ぶ」という目標を立てていました。その結果、それぞれの資料に合わせた温湿度の管理や展示方法などの対策が綿密に行なわれていることを学ぶことができました。

実習体験の中で一番思い出に残っていることは、最終日の展示解説です。博物館の常設展示から三つの資料を選び、展示解説を行ないました。当日はかなりの緊張しましたが、展示資料の価値や弘前市の地域性をしっかりと把握し、丁寧に話すように心がけました。その中でも、資料のみを解説するのではなく、パネルの用語説明や関連する情報

が自分の勉強方法をしっかりと確立し励んでいました。道徳の長い勉強や模擬試験を通じて、自らの強みや課題と向き合っている部分や不安や恐れ

合否の結果発表はこれからですが、皆がこの1年間に積み重ねてきた努力と経験は決して無駄にはなりません。これから医療職者としての自分の道を着実に歩んでいくことを心から祈っています。

合否の結果発表はこれからですが、皆がこの1年間に積み重ねてきた努力と経験は決して無駄にはなりません。これから医療職者としての自分の道を着実に歩んでいくことを心から祈っています。

国家試験を終えて

看護学部 看護学科 講師 小野 綾

2024年2月9日に保健師国家試験、2月11日に看護師国家試験が行われ、本学看護学部

の学生も会場となる弘前大学にて受験に臨みました。私たち教員もこれまで学習サポートに努め、必要な指導やアドバイスを提供しました。1年間の学びと努力を振り返ると、私たち看護教員は学生たちの大きな成長を感じます。

看護師国家試験は出題範囲が広く、学生は1年生から学んできた事を幅広く学習することが求められます。また保健師国家試験を受験する学生は、看護師国家試験との両方を受験することになりさらに多くの学習を要

けてきました。最後の実習となる看護統合実習の頃には、自律的に行動する姿が見られました。指導を行う教員にとってこの頃は、本当に大きく成長したなあ」と心の中でしみじみと感じる時期となります。

夏には暑さにも負けず、冬は寒風に耐え、大学に登校し勉強に励んだ学生。または、自分のお気に入りの勉強場所を見つけ出し、士気を高める工夫をして日々勉強した学生。大学図書館での勉強が捗ると通った学生。それが



『風邪は万病の元』ガムを噛んで予防！

社会福祉学部 社会福祉学科 教授 葛西 久志

今年のお正月早々に、私は風邪を引きとても辛い日々を過ごした。そこで、今回の談話室の話題提供に風邪の予防対策について調べてみることにした。

「風邪は万病の元」という。誰も知っていないことである。「風邪はあらゆる病気の元であるから用心すべきである」というこ



看護学部卒業研究の報告

看護学部 看護学科 講師 小野 綾

2023年11月11日に看護学部4年生の卒業研究発表会が開催されました。本看護学部では4年生になると、4月から指導教員の指導のもと卒業研究に取り組みます。初めて1人で行う研究は、まずは研究テーマを決めることからスタートします。研究テーマの設定は適当にはできません。既存の研究をリサーチし、自分のやりたい研究の新規性・独自性・再現性・妥当性を考えながら決める必要があります。この時点から指導教員とコミュニケーションをとりながら試行錯誤が始まります。研究テーマ決定の次は、研究計画書を作成していきます。研究の背景、目的、方法を考え

文章に表していきます。計画をしっかりと組み立てておかないと研究はうまく遂行できません。ここでも学生たちは時間をかけて取り組みます。本学では研究計画書作成だけでなく、研究の実施、発表までの一連の流れを行います。この経験は、卒業後の病棟研究などにおいて役に立ちます。

研究計画書が完成したのち、いよいよ本格的に研究実施に入ります。本学の卒業研究では、アンケートやインタビュー、実験、文献レビューなどの方法がとられています。学内だけでなく学外へ赴いてデータ収集を行う学生もいます。レポート作成とは異なり、自らがデータを収集するという初めてのプロセスを経験します。春からの長い道のりを経て夏から秋頃には研究は形になっていきます。そして10月に論文を提出します。

11月に行われた卒業研究発表会は、このような努力の結晶を披露する晴れの舞台となります。学部内で係の学生たちが会場設営などの準備を行います。当日の運営もすべて学生が担当します。緊張しながらも一生懸命に発表し、質疑応答に対応する一人ひとりの学生の姿がそこにありました。テーマ決定から発表までの一連のプロセスの中で学生たちは大きく成長していきましました。卒後のさらなる羽ばたきへの期待が膨らむ1日となりました。

英語・英米文学科の卒業研究のポスター発表会

2024年1月27日(土)、英語・英米文学科では卒業研究のポスター発表会を開催しました。

今年度の4年生が自分の卒業研究についてのポスターを作成し、学会のポスターセッションのような形で発表しました。発表はほとんどが英語で行われました。質疑応答は日本語で行われ、盛り上がり 있었습니다。今年度の卒業研究のテーマは、文学から文化、英語教育、歴史的研究まで多岐にわたりました。来年度の卒業テーマと研究手法の参考となるようにと、一部の3年生の学生も参加してくれました。すべての学生の参考となりました。

なるように、新年度には今回のポスターを1号館3階に掲示します。今年度の4年生の卒業研究に興味がある人はぜひご覧ください。今年度の英語・英米文学科4年生の卒業論文の代表例と各論文の概要を「弘前学院大学英米文学」の学会誌に掲載しました。



学会誌は以下のURLで閲覧できます：
https://www.hirogaku-u.ac.jp/faculty/bungaku/activty/e_literature/

地域福祉の多様性と協働の重要性

社会福祉学部 社会福祉学科4年 齊藤 健太郎



私は、社会福祉士を目指す学生として、2023年8月8日から9月14日まで藤崎町社会福祉協議会(社協)で実習を行いました。実習を行った中で、私が学んだことは、タイトルにもあるように、地域福祉の多様性と協働の重要性でした。

1つ目の地域福祉の多様性について、社協は、地域住民の福祉ニーズに応えるために、様々な事業や活動を展開しています。実習を通して、高齢者福祉、生活保護など幅広い分野に触れました。特に印象深かったのは、要支援高齢者に対する生活支援です。社協では、福祉安心電話サービスや、地域見守り活動事業などを提供することで、高齢者に対するサポートを行っています。

2つ目に協働の重要性ですが、社協は、地域住民、行政機関、様々な主体と協働して地域福祉を推進しています。実習を通して、協働の重要性を学びました。協働の重要性を学ぶ上で特に印象深かったのは、ネットワーキング会議の出席です。行政機関・専門職などが集まり、それぞれの課題を共有し、解決策を検討していました。その中で、社協の職員として、コミュニケーション能力、ソーシャルスキルが必要だと感じました。実際に実習生として会議の課題について解決策を問われた際、自分の考えを上手く伝えることができなかったので、ソーシャルスキルやコミュニケーション能力が必要だと痛感しました。

今回の実習を通して学んだことを活かして、将来は地域住民のニーズに応えられる社会福祉士を目指したいと考えています。

最後に、実習期間中に指導して頂いた社協職員の方々にお礼申し上げます。ありがとうございました。

日本語・日本文学科 卒業論文発表会

文学部 日本語・日本文学科 教授 鎌田 学

二〇二四年一月三日(土)一号館講義室一、二、三にて、四年生の卒業論文発表会を開催しました。各ゼミから一名以上が登壇し、論文要旨を五分程度で説明。その後質疑応答を行った。



多くの発表者が、卒業研究を控える三年生に対して論文作成上の助言も与えていた。当日の発表者と題目は以下の通り。

石川ほの美 「夏目漱石研究―連作短編集として捉える『夢十夜』」
 古川彩加 「落語と昔話の関係性についての研究―ブコラージュとパロディの面から見る口承文化」
 豊川泉水 「環境が子どもに与える影響―母親と娘の関係に着目して」
 溝江香南 「仁徳天皇讚美の方法―記紀の伝承の比較」
 寺田みこと 「宮沢賢治の作品における形態表現―無感情語および詩的言語をめぐって」
 佐々木優奈 「事実と虚構の間―『人間失格』及び『斜陽』をめぐって」
 都谷森希 「宮沢賢治文学における動物の表現―『ブランドン農学校の豚』及び『ボラーノの広場』をめぐって」
 工藤寧々 「やさしい日本語」の活用―ウェブサイトの導入実例調査を中心に―
 高橋遙加 「国語教育における評論・論説教材について―平成一四年から令和三年までの教科書と学習指導要領の比較」

精神保健福祉実習を終えて

社会福祉学部 社会福祉学科4年 熊谷 有彩



私は、精神科病院と地域活動支援センターで実習をさせていただきました。実習を通して、精神保健福祉士の役割、精神障がいに対する考え方、自己覚知について学び、知ることができました。

精神科病院の実習では、コミュニケーションを行うことに対して、とても悩みました。私が話した内容によって患者さん

の気持ちを左右させてしまったり、刺激させてしまったりするのはないかという思いが強かったからです。このような思いから、患者さんに対してどう接すればいいのか、という不安が自分自身にあることに気づきました。実習指導者の方に相談すると、患者さんではなく、「一人の生活者」として接することが重要であるという視点を教えていただきました。この考え方は実習を通して私の軸となりました。

地域活動支援センターでの実習では、相談計画支援や地域移行

私には、精神科病院と地域活動支援センターで実習をさせていただきました。実習を通して、精神保健福祉士の役割、精神障がいに対する考え方、自己覚知について学び、知ることができました。

精神科病院の実習では、コミュニケーションを行うことに対して、とても悩みました。私が話した内容によって患者さん

の気持ちを左右させてしまったり、刺激させてしまったりするのはないかという思いが強かったからです。このような思いから、患者さんに対してどう接すればいいのか、という不安が自分自身にあることに気づきました。実習指導者の方に相談すると、患者さんではなく、「一人の生活者」として接することが重要であるという視点を教えていただきました。この考え方は実習を通して私の軸となりました。

地域活動支援センターでの実習では、相談計画支援や地域移行

行支援を行っているところを実際に見ることができ、精神保健福祉士には「仲介する」という役割があることを学ぶことができました。その支援の様子は、とても親近感があり、実習生である私を温かく受け入れて下さっていました。また、生活について聞くと、就労や金銭面でのやりくり、趣味、障がいの受容を行うことについて、それぞれ真剣に考えていることを知りました。

実習では悩んだこともありましたが、実習指導者の方と実習担当教員の方からの適切なご指

二〇二三年度 理事長賞授与者

文学部 英語・英米文学科 福士 さくら
 日本語・日本文学科 溝江 香南
 社会福祉学部・社会福祉学科 工藤 果乃
 看護学部・看護学科 井上 明

夢を追いかけた四年間

文学部 英語・英米文学科卒 福士 さくら



卒業を迎えた今、大学での四年間を振り返ると、憧れていた大学生活はコロナウイルスの蔓延により制限され、不自由なことも多くありました。しかし、終わってみると充実したあつという間の四年間だったと感じています。

高校生の時、自分自身の将来について悩んでいた私は、あるとき教員になりたいと思うようになり、この大学への入学を決めました。大学入学後、夢の実現に向けて、様々な講義を受講していくと、在学中に取得したいと思う資格がどんどん増えていき、最終的には三つの資格取得を目指して、必死に勉学へ向き合うことになりました。学年が上がるにつれて、講義や演習の内容が専門的になって、より

大学生生活を終えて

文学部 日本語・日本文学科卒 溝江 香南



四年間の大学生活は、長いようであつという間でした。入学当初は、コロナ禍中で新入生リトリートも無く、休講も続いていました。当時の私は、友人作りや初めての講義に対する不安でいっぱいだった記憶があります。そんな私でも、「なんとか卒業を迎えることができました。この四年間で、多くの良き友人や良き先生方に出会うことができました。勉学の面でも、日本語や文学、マンガやアニメな

多くの知識や技術が求められるようになり、自分の思うように勉強が進まないこともしばしばありました。また、大学生活の集大成とも言える教育実習や卒業論文の執筆にあたっては、自分自身の未熟さを痛感し、自信を失ってしまうことも度々ありました。何度も途中ですべてを投げ出してしまいたいと思いましたが、諦めずに最後まで頑張ろうと思うことができたのは、共に学び合った大切な仲間たちや、どのような相談にも快く乗ってくださった先生方、どんな時でも温かく見守ってくれた家族が支えてくれたからです。何度この四年間を振り返ってみても、ここまで全力で走り抜けられたのは、決して一人の力だけでできたことではなく、私を応援してくれる多くの方々の支えが

術館にお世話になりました。終始緊張しながらも、積極的に取り組み、実りある実習にすることができたように思います。卒業論文は、本当に大変でした。膨大な量の資料を読み漁り、それらを整理して考察し、自分の言葉でまとめるのが本当に難しく、大変でした。しかし、自分のやりたいことはやりきれたので満足しています。卒業論文の執筆にあたり、よく相談のってくれた友人達や山先生には感謝してもきれません。四月からの新生活にも、不安しかありませんが、これまでの学びを活かしながら精一杯頑張ります。最後になりますが、これまで支えてくれた家族、友人、先生方、関わりのあつたすべての皆様に心より感謝を申し上げます。ありがとうございました。

あつたからこそできたことなのだと思えます。

大学生活は楽しいことばかりでなく、苦しいことも多くありましたが、ようやく目標としてきた教員としての一歩をこの春から歩き出すことになりました。これからも、大学生活の中で得た経験や学び、そして、「求めなさい。そうすれば、与えられる。」の精神を忘れず、物事に全力で取り組み姿勢を大切に、さらなる夢の実現に向けて諦めず挑戦し続けたいと思います。

4年間を振り返って

社会福祉学部 社会福祉学科卒 工藤 果乃



一人暮らしやアルバイト、就職活動、国家試験など初めて経験することが多かったこの4年間は、不安や苦労がありながらも多くの人に恵まれたことで、今まで味わったことのない喜び

や達成感を感じることができた日々でした。大学生活の中で最も大きな課題となったのは、社会福祉士の国家資格取得に向けての勉強です。1年生の頃から講義や演習実習を通し、社会福祉士として必要な知識や技術を身に付けてきました。4年生になってから本格的に対策をするようになり、同じ問題を繰り返し解いたり、自分で歴史年表を作ったりなど工夫を加えながら勉強しました。しかし、思うように点数が伸び悩み、集中力が続かないという

息苦しさを何度も味わいましたが、その度に励まし勇気付けてくれたのは、先生方と同じ試験を受ける仲間存在です。親身になって向き合ってくれたり、勉強場もも提供してくださった先生方、互いに分らないところを教え合ったり、息抜きに付き合ってくれたりした仲間感謝しています。このように周囲の支えがあつたおかげで、国家試験を乗り越えることができたと思います。2020年度はちょうど新型コロナウイルス感染症が流行り始め、講義開始の先延ばしや不要不急の外出が強いられることもあり、不安の多い中での入学でした。知人1人いない街での

生活に不安を抱えながら始つた4年間でしたが、気が付くと周りには、いつも他愛のない話に付き合ってくれる友人や、どんな疑問にも真摯に向き合ってく下さる先生方で溢れていました。そして何より、県外から私の生活を支え、帰省する時も喜んで迎え入れてくれた家族の存在は、常に心の拠り所でした。新しいことへ挑戦する楽しさや、大学生でしか味わえない自由を経験できたのは、紛れもなく私の傍にいてくれた人々のおかげです。ありがとうございました。思いがどうございました。



四年間の大学生生活を振り返って

看護学部 看護学科卒 井上 明



大学生活を振り返ると、長いようであつという間の四年間で、しかし、今だから短く感じるものの、当時はとても長く、険しい道のりだと感じていました。入学当初は、これからの大学生

活に対する期待で胸を膨らませていました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響によって、入学後すぐに休校になり、授業や行事が中止になってしまいました。想像していた大学生活との違いに、不安を感じるようになり、結局、四年生まで終息せず、貴重な領域別実習の多くが学内実習になってしまいました。実際に現場を経験する機会は減って

しまいましたが、その中でも看護の難しさと共に、やりがいを感じることができました。患者さんに実践して上手でできなかったケアは、学校に戻って何度も練習したこと、また、夜遅くまで患者さんの看護について考えたことは本当に大変でしたが、自分が患者さんの力になれたと分かった時は何よりも嬉しかったです。

この四年間は、自分自身を成長させることのできた貴重な期間だったと強く感じています。私は自分に自信が無く、発言できないことや、疑問に感じたことを人に聞けずそのままにしてしまうことがありました。しかし、長所を見つけて下さる先生や、分からない所を共に考えてくれたり相談に乗ってくれた友人と出会えたことで、少しずつ自信を持つことができました。そのおかげで、卒業後就職活動、国試勉強を乗り越えることができました。

これからの社会人としての生活は不安が沢山ありますが、この

日本ソーシャルワーク教育学校連盟の成績優秀者表彰される

この度、二〇二三年(令和五年)度の成績優秀者が決まりました。

この賞は、社会福祉士精神保健福祉士養成課程修了者で、学業成績・人物ともに優秀である学生に対し贈られるものです。

日本ソーシャルワーク教育学校連盟成績優秀表彰者は、井澤くる未さん(社会福祉士養成課程)、熊谷有彩さん(精神保健福祉士養成課程)です。

二〇二四年の社会福祉士、精神保健福祉士の合格者は以下のとおりです。

社会福祉士 十五名
井澤くる未・小山内和・落



精神保健福祉士 一名
熊谷有彩

合桃雅・葛西沙羽・木村雅・工藤有彩・工藤果乃・熊谷有彩・黒澤俊也・天坂航大・船水あやの・本間萌楓・町田唯・丸岡将大・三國千妃路